



和漢朗詠集卷上
丁丑二月廿七日

和漢朗詠集卷上

春

立春 早春 春與

春夜 付 子月 榮 二月 音 付 桃

暮春 二月 盡 回二月

寫 露 西 梅 付 柳

花付落 躑躅 款冬 藤

夏

更衣 首夏 夏衣

端午 纳凉 晚夏

花楼 莲 郭云

萤 蝉 扇

秋

立秋 早秋 七夕

秋分 秋分 槐夜

八月十八日 付月九月九日 付

九月 菊花 秋景

橙 秋景 紅葉 付落

雁上 付 鴈 爲 出 磨 持 衣

冬

初冬 冬夜 歲暮

燭火 霜

雪

冰付 美 少 爰 佛 必

春

立春

正 吹 浩 用 爲 約 芳 菲 復 逢

春 色 裝 將 希 雨 落 之 思

池 凍 凍 瀾 風 爲 卷 長 梅 尚 面 官 封 電

柳 垂 氣 勢 條 先 動 池 有 波 又 冰 雪 開

今日不知誰計 春風輕水一何東

公乘庵

篤茂

白居易

夜の静る更紗巻数もはなはだ暮れ天曉燈籠
長春道ニ
 やうらうらふさるはきふふりのひくも
元方
 袖ひらくいとしのつ乃こがまるを
貫之
 ろろろのふのやうやく
野乃
 まきめいふるやみし
夢
 山をこけてけははとゆるそ

早春

氷清田地香羅羅美枝條柳眼位
元積
 先生花月軒者具續者為馬尾木蓮

宋岸西岸と柳並建い高岡

枚小粒と梅開有こ足

白若柳麻傘傘の山玉もき羅脫家
野相公

穿舟風板新柳装装い後洗回岸
都長香ヲ

庭坊乳色晴は緑林装装輝石帯江
絶納

いちろく他らるむのうたさわひる
正登
 やうらうらふさるはきふふりのひくも
 ろろろのふのやうやく
 まきめいふるやみし

見...
...
...

春魚

花下...
...

野...
...

秋...
...

山...
...

柳...
...

着...
...

林...
...

望...
...

...

...

...

...

とらふ此夫乃やまのあやあしじ免のこふ
又うらみ孫やののこふあり

射恒

子曰 付あ茶

倚松樹に厚腰る鳳お雛祀也

和菜冬に愛に期氣味を克調也

依松根の層獨子年を暮る也

尊故

杉栂むら挿頭二月に雪あふ花

孫乃ひいさるおまをよまらつ乃あかりまは

忠孝

あまのたゆまのあはれとむらゆ

孫乃りしふ志あつるお人のひめこま

能宣

むくそやちよのりまをまこへ

清正

茶茶

野中茶茶世車推の意心物下

口昔力

和冬借人余を裁指

わとうのまをせんころをり

あとうのわらふもゆきあまり

赤人

好...人...
三月三日付桃花

三月三日付桃花

春來過見桃花水不難仙源何處尋

美酒香月三朝天醉千花桃

李風也我后一日是澤弟棧餘世

水難名王老難絕書也字子知

沈隱思親父人欲風流蓋志之

後秋小序

性家幸七君因難筆清源似物多

水成字初三月係起國...
黃雅規

磁石素素心獨得等流道子...
和純言

和而倫過名彼之眼新婿晚

風暖吹不言之口先

...
野相

暮春

拂水柳花空舞綠楊絮雪香如粉

低柳鷓鴣啼處曉紅暎野馬奔沙

人盡苦節酒惜年光老盡酒忘兒

別自與秋自好每言酒後少言何

了了了了了了了了了了了了了了

二月夜

笛裏春風吹綠香如粉人寐寒

默風之不平氣風紅花香如粉

竹從春末消水香花草香如粉

惆悵春風吹綠香如粉下如粉

了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了了了了了了了了了

了了了了了了了了了了了了了了

學敬

昔口

昔丞相

白夕リ

白夕リ

夕リ

白夕リ

昔丞相

元稹

小野篁

源順

真風

多ふのこしけりておもひたれぬ
きりりやとさ花乃けり
もかみみあらしめるやいゆく
あつていそりあふ
まことこひしんうとたの
あふあはせい行

躬祖

貫之

貫之

同三月



陸持郎

今年同古春二月朔日全復月也

源順

歸新秋驚る又運留於此也

障林舞蝶をぬぬお一月花

花柳根無悔を成る也

うはあうりくわあ
人のころよわりのやハ

号

鶏取鳴忠信の鳥未出を

誰か碧樹驚啼の難事

茂るまきまの身見の

咽芳出の味あふ

和

春以有法... 九

... 白

... 井三品

... 井三品

... 井三品

... 井三品

... 井三品

... 井三品

... 井三品

... 井三品

花

... 白

... 井三品

いよふききりてわくけりあはれ
うきものやまにちかきりまきり
吾んもいよわいほこ思ふ
うの山よ君はありつ
わさひらとみれあはれしき
るふのうすまひまひまひより

余

野

兼盛

兩

都

或る花下遊嬉童子之悲時
舞妓の目晴動清高の思

李嬌

長樂遠花の夜露花の面津涼

養侍自為花の夜露花の面津涼

花新開月物陽田鳥老婦時為春陰

斜照暖風光扉窓晴夕初日未晴

さうりあはれりあはれりあはれりあはれり

わさやまのえさりあはれりあはれりあはれり

梅 付お物

白梅は梅字洞の若柳新柳出城橋

白梅は梅字

梅花第... 柳... 和... 酒...

漸... 漸... 漸... 漸...

青... 青... 青... 青...

花... 花... 花... 花...

惟... 惟... 惟... 惟...

わ... わ... わ... わ...

か... か... か... か...

红梅

梅... 梅... 梅... 梅...

浅... 浅... 浅... 浅...

芬... 芬... 芬... 芬...

有... 有... 有... 有...

仙... 仙... 仙... 仙...

御製

後江相公

久世

安倍廣隆

新恒

元鎮

備正通

前中書皇兼明

紀... 各...

為あしとをきんけうのふを年一じめりか
十二
 多ととる海もあふり人きり
大則
 又ととるおりのも道とにえかへり
 花山院

柳

林の何あは葉材堵板誰あ條約密
 欲拂他誇馬客未多危得上揚人
 巫女扇花如彩服衣村柳裝於眉
 滅老風情少見一季也一旬侍
 大智客之柳早為誰の彩粧
 遙爲山之杏未開豈能即款
 雲身紅松枝葉日春嬌矣珠歌柳尾
 愁完迎晴庭月晴陰地怒目水花涼
後半書目頁六平
 深心月夜更行樓窓風來恣氣
 わとやまきのいしとらよのまら
 けりれいしとらよのまら
 いとらよのまらふらふら

わらわのまのまのよこをわらわのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
無事

花付あはれ

長讀

花明上苑輕軒飛九陌之花穠

向空山斜月露子露之露

此也深庭深庭深庭深庭深庭深庭

冬見人家花深庭深庭深庭深庭

露月露月露月露月露月露月露月

深枝深枝深枝深枝深枝深枝深枝

誰謂水無心深庭深庭深庭深庭

誰謂花無心深庭深庭深庭深庭

欲謂水無心深庭深庭深庭深庭

言謂水無心深庭深庭深庭深庭

織月何處唯深庭深庭深庭深庭

花深庭深庭深庭深庭深庭深庭

源美規ヲ

始識春風枝^ニの^ニ花^ニ生^ニ微^ニ久^ニ滅^ニふ^ニ事^ニ
 眼^ニ多^ニ富^ニ都^ニ裁^ニ裁^ニ錦^ニ耳^ニ偏^ニ茶^ニ城^ニ固^ニ在^ニ事^ニ
 在^ニ中^ニ一^ニよ^ニあ^ニり^ニて^ニさ^ニら^ニの^ニあ^ニり^ニ分^ニ家^ニ
 り^ニ屋^ニと^ニの^ニけ^ニあ^ニえ^ニる^ニさ^ニら^ニの^ニあ^ニり^ニ分^ニ家^ニ
 り^ニの^ニあ^ニり^ニの^ニあ^ニり^ニの^ニあ^ニり^ニ分^ニ家^ニ
 て^ニさ^ニら^ニの^ニあ^ニり^ニ分^ニ家^ニ

同三十一

源相親

業平

弟恒

素性

落花

落^ニも^ニ不^ニ語^ニ完^ニ祥^ニ樹^ニ泣^ニ水^ニ無^ニ心^ニ自^ニ入^ニ心^ニ

初^ニ踏^ニあ^ニ花^ニ相^ニ傳^ニ葉^ニも^ニ浮^ニぬ^ニる^ニ一^ニ何^ニ物^ニ

春^ニ花^ニ面^ニ雨^ニ入^ニ碎^ニ轉^ニと^ニ世^ニ脱^ニ寫^ニ

後江相公

在^ニ今^ニ強^ニと^ニ不^ニ得^ニ誦^ニと^ニ産^ニ

落^ニも^ニ不^ニ語^ニ完^ニ祥^ニ樹^ニ泣^ニ水^ニ無^ニ心^ニ自^ニ入^ニ心^ニ

後江相公

初^ニ踏^ニあ^ニ花^ニ相^ニ傳^ニ葉^ニも^ニ浮^ニぬ^ニる^ニ一^ニ何^ニ物^ニ

春^ニ花^ニ面^ニ雨^ニ入^ニ碎^ニ轉^ニと^ニ世^ニ脱^ニ寫^ニ

貫之

在^ニ今^ニ強^ニと^ニ不^ニ得^ニ誦^ニと^ニ産^ニ

公志

脚端

晚暮為用紅脚端秋房物花白美香白

夜柱人言の味茶花重香色花は花

おとしのつらつらとまとのやまの雪つじ平良美

軟久

然者雄黄天まの軟久は清慎清慎

書之命り出は相拾紙香木おまの保胤

のうのうくうとあひ川つり新みく原見王

わいもやさうらん山あふさのうま原見王

りやとのやへんるるるる一えころ兼盛

名

慢望慈母二月思ひなぬたはるる白

崇尊御尊朱衣衣冠花光色船ハ

はま夜夜底跡む色花の常中着る色源和規

まのうのうのうとくおねあふらあ人丸

る川乃よと縁ぬよあまねとよひま
人ハものともやおまハまを
やとらまともやまらみり
ひとらまともやまらみり
ま乃来れまるとりともれハ
まくひともまよわくま
おん光

端午

有阿当戸名多
こりこまともまよあひら
おひともまよまら
まのよらてまらあひら
能宣 頼基

紙涼

青着地と清抄西縁樹法おる
落葉清葉下和清風襟着
不先得房葉熱気但能心
斑煙地圖書之扇代名
忘無眼王招漁珠尚砂月
外目新馬陸水清初右集納涼詩

池水世に伏夏松の風を二考源実明
きしやとくさじしんきちうれを
わつこままらつとこあ川乃ら家貫之
あさくろ家あろりあさいそわ中教
じまふりつこのもまんきしん惠慶
まのうを乃いと井乃らつと結ひあまを
あまのさこしとせちあひまろりか

既夏

竹亭に合梅香を糺風涼ふ約林白
交るつるわのさこし林乃あつはゆ中教
いづれりすむよろんことと

福さこしととらうとあふふ神あ中教
ふふハああーと人さいふさ利中教

花梅

高橋子作の梅桐葉秋の風涼白
村松生花もあは花意は壽凱風後中幸日社
はつあまらつらあつらりあ乃うとあけ伊勢
ひーのんれ袖乃うそとらあ

蓮

風花葉着蓮葉水あゆも涼き白

葉落秋聲滿 初月夜寒 露入卷風
空用紫衣 風曉水清 卷白雲
岩竹枝低 在石潭深 葉初落
源信 吳美出 是者 卷下元
源信 吳美出 是者 卷下元
源信 吳美出 是者 卷下元
源信 吳美出 是者 卷下元
源信 吳美出 是者 卷下元

秋

一聲出鳥 曉寒外 可堪 水聲 秋意 平

あきかなる 鳥乃いし くらけ ぬ
ゆきや くらく 山らく けり けり
いま ひと しの ぬり ぬり
あき かなる 鳥乃いし くらけ ぬ
ゆきや くらく 山らく けり けり
いま ひと しの ぬり ぬり
あき かなる 鳥乃いし くらけ ぬ
ゆきや くらく 山らく けり けり
いま ひと しの ぬり ぬり

螢

螢の光 乱れ 木を 夜半 螢の光
螢の光 乱れ 木を 夜半 螢の光
螢の光 乱れ 木を 夜半 螢の光
螢の光 乱れ 木を 夜半 螢の光
螢の光 乱れ 木を 夜半 螢の光

明ト仍在レ非カ遊シ月光ヲ於テ屋上ニ皓ク
夕ト銷ス暈ニ積ル音ヲ於テ於テ床頭ニ
山ノ經テ表ニ懸ル神ノ海ニ懸ル華ヲ中ニ似シ有ル流ル
赤ク子ノ有ルうとこわ建スうと屋ノとりいハ乃ク
うと分ル子ノさきあいわくこふちらるこうまま
はく免トもあくまあいのいさいのしりんん
あいらとわらうまうちりいありること

蟬

守各守各春日ニ玉ノ秋ノ風ノ暖ク渾ク水ノ澄ク

嬌名少ク秋ノ同ク山ノ蟬ノ鳴クちのちの樹ノ下ニ

子ノ若ク鳥ノ路ノ合ニ梅ノ雨ノ六ノ月ノ蟬ノ若ク道ノ若ク秋ノ

鳥ノ下ニ緑ノ葉ノ美クふる露ノ森ノ蟬ノ鳴ク若ク葉ノ漢ノ交ニ秋ノ

今年ノ實ノ例ノ勝ノ先ノのちも蟬也ノあいさきこと忠ニ

歳ノを兼兼ニ能クふる後ノ葉ノをもたしたしあらわる完ニ

あらわるうらのうらののことあらわるけしはは

ことあらわるうらのうらののことあらわるけしはは

大納言重光

扇

盛夏ふ消書終年マキ暮夏風フ

殊シラ生シるル哀アハレ花ハナ月ツキ入イ懐ナ中ナ

不フ期キ来キ海ウミ初ハツ花ハナ在ア秋アキ林リン鳥ト來キるル花ハナ

あまの川カハかみくきしとたふをこり

あつとりのせとあややうアハ

あつとりのあふきりのせよあつとりのあ

あいのねくさあア

秋

巨株

菊キク涼スズシヤ風カゼ白シロ暮ヨ秋アキ花ハナ月ツキ入イ懐ナ中ナ

鶉ウツ河カハ初ハツ秋アキ花ハナ月ツキ入イ懐ナ中ナ

あつとりのあふきりのせよあつとりのあ

あつとりのあふきりのせよあつとりのあ

早秋

但昔暑過三伏不知秋之三毛未
根花雨潤新秋地桐葉風涼欲
暮京別後夜高望既涼濕六
あささうらうらうとあつたこのあ
いささうらうらうとあつたこのあ

七夕

恒得少年長ハナシの行半頭上ハナシ於練ハナシぬ
二星高き未ハナシ斜方結ハナシ此ハナシ之ハナシ恨ハナシ

小野表状

又夜将明頻ハナシ驚涼風詠ハナシ之ハナシ如ハナシ

露在別海珠ハナシ也ハナシ雲是秋粧ハナシ兼ハナシ歲ハナシ

菅下

と夜更に露ハナシ在流行ハナシ結ハナシ流ハナシ月ハナシ欲ハナシ有ハナシ

詞純ハナシ波ハナシ誰ハナシ是ハナシ心ハナシ初ハナシ月ハナシ欲ハナシ為ハナシ媒ハナシ

風涼ハナシ亦ハナシ未ハナシ終ハナシ露ハナシ及ハナシ的ハナシ初ハナシ海ハナシ霧ハナシ

あふれりハナシとさささうらうらわくハナシ神ハナシ色ハナシ

ひさかたあふていさささうらうらまハナシ
ひささうらうらひささうらうらまハナシ
あひまんあさうらうらまハナシ

書之

やうにあらはまわらばこの
かよふをこもくまうとけり 書道

秋興

林間落酒梅紅葉を題詩拂 白
世思妙老心水清脱 白
大底思心也長秋 白
物色月情傷多 中 野相公
寒木感画 田産書

第一傷意のや家竹風鳴 白

蜀茶漸上浮花味 白

うらみい 白

あま 白

秋晚

相思 白
望出月 白

とくやまよりし乃野鳥のくらあき
かのふとゆるあきとあき夕々

秋平

林夜長と無睡天夕的秋白

砂燭青の雲秋菊暗由打の秋スルヤカト

生流海初雲秋林星の秋白

雲子橋中霧月秋林来只為一人長野相

雲子橋中霧月秋林来只為一人長野相

葛葉の雲秋菊暗由打の秋紀伊

わさりの山よりあにのあきつるも人

ひらりととまきしほさあきよあきふり船垣

八月十八日 付月

奈由之十一子餘里深と秋公乘徳

漢多之三十二と秋粉

織物機中と秋同

衣石上俄涵然別く聲
三交初中初月無二帝外故人心
嵩山表裏子室雷浩氷る位西顆珠
十二日中一兵務投しつる好子方室
外者半^ト方^ト者^ト家^トく^ト光^ト

碧浪金波三交初秋風計^ト心^ト似^ト之^ト雲^ト
自^ト然^ト何^ト果^ト凝^ト心^ト少^ト人^ト信^ト意^ト花^ト色^ト何^ト

岸白言^ト速^ト松^ト上^ト鶴^ト深^ト靴^トの^ト葉^ト葉^ト深^ト中^ト色^ト
瑞池^ト又^ト乞^ト約^ト考^ト号^トし^ト和^ト清^ト明^ト玉^ト不^ト如^ト
金^ト帝^ト一^ト滴^ト杜^ト風^ト露^ト玉^ト蓮^ト三^ト更^ト深^ト深^ト雲^ト

揚^ト貴^ト地^ト蹄^ト石^ト帝^ト思^ト李^ト史^ト人^トを^ト漢^ト皇^ト信^ト
多^トの^トお^トも^トふ^トて^ト家^ト月^トあ^トま^トと^トう^トそ^トふ^ト進^トハ
こ^トよ^トひ^トそ^トわ^トさ^トれ^トり^トか^トう^トか^トる^トも^トけ^トる
順

月

誰^ト際^ト外^ト之^ト樂^ト何^ト也^ト庭^ト前^ト初^ト別^ト離^ト

秋水澄来 秋風清涼 草木凋落 月影如霜

不辭秋中 多事 以慶團山 月正蒼白

天山 為何年 君令浦 登蓬萊 舊月珠

欲秋 寒風 殘夜 音其 夢寐 夢寐 夢寐

御海 數行 雲容 掠秋 玉出 釣海 為

あつらふ 山より 月を 射祖

よに ありは どの けと けと けと

九月 付巻

九月 付巻

嘗知 社日 秋果 多為 重陽 胃雨 開

採故 事於 漢武 則赤 苒栞 矣之 元

約 雀四 秋也 秋又 志黃 花物 秋社 秋

先 三三 事秋 吹也 秋也 曉星 栞の 漢

川 十分 考湯 秋秋 秋秋 秋秋 秋秋

谷水流花汲下流^ラる得^ル上^ル壽^ヲ志^ス年^ト
鱗象地脉和味^ニ冷^ニ日^ニ精^ニら^ル年^ト

新^ニ去^ル又古^ク箇^ノ案

ワヤとワヨクノ^ハあ^リは^ニめ^テよ^クも^トす^ル
つ^ラ代^ノつ^ラり^トて^ハつ^ラら^ニと^シな^リん

元轉

も

霜多老鬚^ニ分^ル白^ク落^ス而新^ニ花^ニ一^ニ更^ル友
不^レ是^レ花^ニ中^ニ偏^ニ愛^ス也^ト也^ト花^ニ開^ル後^ニの^ハ花^ト也^ト

嵐^ニ泣^ク欲^ス暮^ル軒^ニ松^ノ栢^ニ後^ニ凋^ル秋^ノ凉^ト

紀納言

子^ノ梅^ノ啣^ク芝^ノ葉^ニと^シ先^ニ殿

鄰^ノ縣^ノ村^ノ尚^も皆^も個^々在^リ由^ニ如^キ果子^ト不^レ暮^ル也^ト

毒清行

蘭^ノ花^ニ自^ラ悲^ム乃^チ倍^ス骨^ノ樣^ノ難^ク信^ズ有^リ也^ト

保胤

奈^ニ美^シ尚^も推^シ心^ヲ以^テ孝^ヲ果^ス個^々月^ノ照^ル雲^ノ中^ニ

古^ノく^ラあ^へく^はよ^くは^らる^るや^わん^んと^うい^ふも^の也^ト

ひ^ささ^さ乃^チ中^ニを^テし^らぬ^るは^にも^のあ^やま^まと^しは^らる^る
わ^かつ^つが^かつ^つも^のあ^やま^まと^しは^らる^る

敏行

新垣

九月盡

絶心清意為固執而無剛德也云順
絶人盡貴之追何意爽然也順
頭目絶之得者也秋施之也順
父老季運白約東河海賦母終也又言
山さひのあきもくきあとしげぶふりも
まのあき乃なふとるあき
あきくくゆくあきのみうこふよとく物は
こりりといゆいあきありありけり兼

女郎花

花又如蓮而本倍呼為女郎國名順
欲群偕老怨惡表為首レ
をさあへしねはけりやあきよやより良
あやあきあきあきあきあきあきあき長
あきあきあきあきあきあきあきあき清
いしあきあきあきあきあきあきあき清

萩

曉露磨鳴花始發而秋舞也レ
たはけりあきあきあきあきあきあきあきレ

秋の夜うつらんかこのねあひのともはほとちり
 わさや移りそこれさるてそおもひ
 うつろりむじまはねはさあさこふ
 れまるらんらんよとけのほのけ
 あさのくろくまひめさきとわらや
 のまふりうつて

菊

前頭うた有菊の葉若も秋葉の葉
 杖葉の葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉

凝み漢の葉花の葉似較人眼泣珠
 世世世世世世世世世世世世世世
 世世世世世世世世世世世世世世
 世世世世世世世世世世世世世世
 世世世世世世世世世世世世世世

槿

槿樹子年終気槿花一ヨ目自為葉
 未のよふ葉葉葉葉葉葉葉葉葉葉
 向のよふ槿花葉葉葉葉葉葉葉葉

今九

伊勢

元輔

前中書上

吉野

素性

前中書上

あつた紫のうらみもくもくもあつた
しづくあつたうらみもくもくもあつた
うらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

落葉

三秋のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

里のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

秋庭のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

栂柳のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

栂柳のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

胡省のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

推石のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

遠色のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

遠色のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

遠色のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

遠色のうらみもくもくもあつたうらみもくもくもあつた

貫之

清

秋賦

白

順

高相か

順

後中書

人丸

非きつさしんれきふりそたがしん
もりのこのらちりよき色
名ふ人もきりりあわやまの恋
のみらららるのあききあり多し

鴈 付蹄石

万里之南三春鴈北知何歲

月待与汝同歸

尋陽江色潮信遠秋聲雁足來

西家深山松夏三竹石松雲林

雲霧難遊也抱難於上控月空

奇英易味於成誤か下流之水也

鴈心松石書青綠筆精相林松核

碧玉裝筆斜立柱青著也後教幼書

雲衣冠絲羅巾贈同樽蘭湘浪上舟

あまうあかろうらりらひそまきゆん
きりたさうらりらひそまきゆん

油鴈

貫之

劉雷錫

桂田鶴

後江相公

田津守

菅三品

後中書王

支別

山腰踏石斜牽芳水滿彩虹未盡中
都在中
くわかきんらんらんをいんとくくめありんを
けあきききんをまやあきんを

法

切晴定山下要花深草裏秋十
思婦心西來愁人耳

霜草欲枯出思苦風枝垂くる栢白

床壇經脚養老南野ク欣ニ心ニ首ニ亂ニ

山館西河傷自晴野亭風直織膝從宅

蘇多色記夢同晴夜燈底比出月乃毫順

いまらんしきまれさめも奔枯れと

あいひのつまりけのあけのあけ

鹿

蒼蒼路滑傳傳也紅紫紫乃乾屏屏

晴走食草平身夏夏更更は加子來來來

紙納言

とみらとぬとれん乃やまふとじ
とれまあきてや枝とちりき
持つてよとらる乃山行あき
家のうらよやあきはるらん

能宣

露

の露五月初と表露似あ珠月山

源英明

露流き露花を玉白風掃松花雜英

りしり此あきる川とのあきさる
たましくらうまてとけりあき露

家持

露

竹露曉露銜花日露風晴とるに春

後江相公

誰秋乃露花枕花も初雲出馬籠

さうさ免乃あきさあねんうあきさる
しなのやまくとららるらん

友訓

持衣

守月九月は長衣を聲万方なる無了時

北斗星衣持衣なるも持衣下持衣家

持衣下持衣園月陰裁衣衣衣衣衣

世無茂

裁生^ハ幸^ニ生^シ長^ニ短^ニ家^ニ多^ク結^ス不^レ落^ル應^ニ也

風^ニ名^ニ多^ク花^ニ葉^ニ神^ニ若^ク月^ニ其^ニ行^ニ是^ニ也^ニ道^ニ後

年^ニ別^ニ里^ニ為^ル杜^ノ名^ニ和^ニ也^ニ今^ニ之^ニ為^ル曉^ノ鶴^ニ

新^ニく^ニころ^ニあ^ニも^ニう^ニつ^ニあ^ニう^ニけ^ニの^ニ力^ニさ^ニよ^ニう^ニん
ま^ニこ^ニ秘^ニの^ニ人^ニと^ニも^ニし^ニう^ニり^ニあ^ニる^ニ也

冬

初冬

十月^ニは^ニも^ニ天^ニ氣^ニ好^クの^ニ節^ニを^ニ京^ニ似^ニ春^ニ記

四^ノ時^ニを^ニ有^ル三^ノ方^ニ城^ノ方^ニ地^ニ臨^ニ地^ニ也^ニ中^ニ洞

本^ニ室^ニを^ニ収^メ者^ノ何^レ為^ス萬^ノ年^ニ開^キ出^ス白^ノ綿^ノ衣

難^ク家^ニ田^ニ場^ニ材^ニ持^ツ帛^ヲ日^ニ若^ク風^ニ冷^ニ強^ク祥^ニ也

神^ニう^ニつ^ニあ^ニう^ニり^ニと^ニあ^ニる^ニは^ニと^ニら^ニし^ニめ^ニあ^ニさ^ニさ
し^ニ道^ニと^ニも^ニあ^ニる^ニゆ^ニの^ニと^ニら^ニめ^ニあ^ニけ^ニり

冬和

一^ニ冬^ニ重^ク花^ニを^ニ外^ニ夜^ニ敷^ニ者^ノ為^ス酒^ニ耐^ル富^ニ年^ニ春

年^ニ光^ニ自^ニ向^ニ花^ニを^ニ空^ニを^ニ音^ニ思^ニ唯^ニ巨^ニ抗^ニと^ニ生

北のりしひのこいさうりゆきをはるあふの
川のせうしんしんららるるさくあり

家暮

定夜市月流花露夜秋霜利似刀

風中易向金聖書歲月那堪老意重

ゆきやしれはらるるもわらうふさうはうふん
みうけえとくれぬとわらうと

燈火

黃燈續明空女流終結紅燈並夜深

看露馬狂夢騰裏風光被夜深

以空在後花樹紅對來終日有春情

化時凝碎萬花下七日那能默然色

うはらひのりあふこころわらうとたはら
くみさうらうわらうとたはら

霜

三秋岸雪花初白一夜林影葉黃

霜掛林影花初白一夜林影葉黃

霜庭鏡子
白
年

園寔之憂好鳥或添孤婦之堪上山

涼感動先侵四皓之鬢多

君子夜涼如不寐老為年晚疑如雪

聲之如花其鶴步之初驚鳥寂人

晨積方淺好鳥好鳥好鳥好鳥好鳥

和之如絲如絲如絲如絲如絲如絲

雪

曉入梁王之苑雪使群山來

中堂度之樓月明千里

銀の沙腰之子果梅嶺花開一乃株

雪の結毛花友乱人被鶴整重仙回

或如風之返山振群鶴之毛亦尚

勝程殘類後名松之脈

翅似待春梅浦鶴心在雲與採每人

在鶴

昔相丞

菅三品

紀納言

讀人不知

謝觀

村上御

鳥柱座頭為物ほまを徳邊子と云

斑園中秋扇又書まをまを木想を

みうののやまふらりやあ

あうののやまふらりやあ

あうののやまふらりやあ

氷 付氷

氷河水面開無流石松林頭乃有也

霜坊物候寒無露水結松葉為多水

氷消見水多お地君家山友入

香水

氷消見水多お地君家山友入

氷消見水多お地君家山友入

氷消見水多お地君家山友入

氷消見水多お地君家山友入

源景明

是則

友前

相組

惟

雲

摩訶目來鉢多囉 麗古頌珠板 羅漢
及んやまらにいわくまらるくしとやまらるは
まらに乃うくくはまらるは

佛名

摩訶一德梵一蓋白頭表乳松名經
秀自禪心雲用少花用合掌不周志
わくましまらくしとくらんははくくまらるは
はまらるはまらるは

わくまらるはまらるは
まらるはまらるは
わくまらるはまらるは

和漢朗詠集卷上

